

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	当法人の基本理念である「地域への還元」の元に、地域住民と歩調を合わせながら地域に根ざしたサービス事業所を展開している。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	法人の基本理念に基づき、開設時研修にて、職員全員へ周知している。日常の生活支援を行っている。ケース会議等における利用者へのケア視点等もそこに基づく考え方となるようにしている。	○	職員会議や学習会・ケース会議を通じて、職員一人一人が法人理念を理解し、日々の利用者との係わりに生かしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域住民に対して、設置前から事業所の理念について説明している。地域推進会議を通じて、はるかを利用されている方の理解や協力を依頼している最中であり、交流イベント等を企画し、施設を開放することで、広く地域の方に知って頂いている。その中で地域の皆様に理解や理念を伝えていけるよう行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	開設より、日常的に挨拶したり外での会話などを楽しんでいる。又、お花や物を届けてくださり、交流も活発になってきている。小規模にある地域交流スペースを町内会の会合や会議等に利用して頂くことで、利用者との交流につながっている。	○	今後も地域交流スペースを生かしながら、気軽に立ち寄れる場所や会合の場所として広く利用して頂きたい、また交流スペースが開いていない場合には和室にイスを持ってくる等より活動できるよう配慮を続けていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会には所属し行事への参加・協力を行っている(古紙回収・早朝の清掃等にも地域の一員として実施)。又中学校行事も参加している。はるか行われる活動も声をかけ、多数の方が出席している。	○	地域の人にもはるか独自の行事に参加して頂けるようになってはきたが、老人会の方などより多くの方気軽に遊びに立ち寄って頂けるように企画等行っていきたい。 また。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域運営推進会議を通じて地域包括支援センターや町内会の方との情報交換は行いながら、地域の方が安心出来る相談場所を整備中である。	○	今後は行事や会合等様々な会を通じながら、地域の高齢者の方々ととの接点を持っていけるよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員行った。又、日常的にもお互いに指摘しあい、日々改善に努めている。	○	外部評価を受けることで、自施設の運営を様々な角度から見直していきたい。 評価されたことに対して、改善を行いながら、より良き施設を目指している。
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の地域運営推進会議で情報交換を行っている。 事業計画・防火活動・利用者の生活ぶりの活動報告を行っている。 開設間もないこともあり、環境面での評価を運営推進会議の中で行っている。	○	今後も、様々な意見を頂戴しながら改善できるものは、速やかに行っていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市職員の施設見学を受け入れたり、介護保険課に意見やサービスに関しての情報を頂いたりと連携を行っている。敬老会への出席もして頂いた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度についての勉強会や今後どのように受け入れていくかについては、まだ行えていない。現在は対象の方がいない。	○	勉強会を計画し、職員の理解と活用意識向上に役立てていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	法人全体で、勉強会を実施している。管理者による虐待チェックを行い。フロアーごとの会議に提案・改善を図る。	○	法人全体としての取り組みとして事故防止委員会を設置している。 その中で学習会を開き、学んでいく機会を定期的に設定していく。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には運営規定や重要事項説明書・個人情報保護等について、利用者・家族に十分な説明を行い、理解・納得・同意を頂いてからの契約を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からスタッフや外部の第三者委員等に不満や苦情を言われることが少ない分、家族や第三者委員に施設を知って頂き、様々な目で運営の健全化を図っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	突発的な病気については、その都度職員が付き合い通院を行い、結果はすぐご家族に連絡・報告している。日常生活の様子などはご家族が面会や行事で来所された際にご本人を交えながらお伝えしている。定期的な金銭の収支報告を行っている	○	本人のはるかで過ごしている様子が分かるような、はるか便り等を発行していきたい。また、日常の様子については今までと同じく、ご家族が来られたとき、その都度報告していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		○	スタッフ・家族の関係を良好になるように努め、遠慮なく意見や要望を言えるような関係作りを築いていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議を行いながら、職員の意見交換が出来る場を持っている。更には日常的にも職員同士がお互いの意見や思いを伝えられるよう意識している。	○	管理者・リーダー、職員が意見を提案、受け入れる体制・雰囲気作りを心掛けたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	様々な希望に沿えるよう、職員間で話し合いを持ち、利用者に合った柔軟な勤務調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は、現段階では行われていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	育成目的の人事考課を取り入れており、日常業務を通じスタッフ個々に合った育成に取り組んでいる又、年間事業計画に施設内研修や施設外研修を年度当初に計画しており、順次職員全員が研修を受け入れられるよう、スキルアップを計っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム研修・小規模多機能研修に積極的に参加しネットワーク作りをしている。その他ケアマネ協議会の主催の研修などにも参加している。又、管理者同士の日常的な意見交換も行っている。	○	今後は他施設の交流や情報交換を行いながら、より良いサービス向上に取り組んでいく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	法人全体の活動として作業管理委員会を設置し、職員の働きやすい環境を作る取り組みを行っている。職員の親睦会でのレクリエーションなども行っている。	○	現在進行中のため、結果が出ていなく今後も継続をしていきたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	スタッフの日常の取り組みや仕事ぶりに理解を示し、共感出来るよう努めている。また、職員が向上を持って仕事が出来るよう育成を目標とした人事考課を取り入れている。行事担当・日常生活費担当など役割分担を行う事で、責任と意欲の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	小規模を利用するにあたって、事前面接を行い、本人の困っていることや不安に思っていることを聞き、本人の思いを受け止められるよう配慮している。	○	職員全体で不安や求めていることを共通の思いとしてとらえ、どの職員でも安心できる関係をつくっていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接時や来所時に利用者やご家族と話しをする機会を設け、要望等を聞くように心掛けている。	○	利用者やご家族が安心してサービスを受けられるよう関わりながら安心できるサービス提供をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者・ご家族が、様々な介護サービスや多機能ホームはるかに対し、どのような希望や望みを持っているか聴取し、在宅計画とサービス内容アドバイスさせて頂き、支援していけるよう配慮を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	小規模利用前に、ご本人に施設内を見学して頂き、職員や他の利用者等の雰囲気を感じ取ってもらうよう配慮を行っている。	○	ご家族と相談し、体験利用等を行いながら徐々に慣れ親しんでもらえるよう対応していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	毎日の関わりの中で、はるかでの出来事・家庭での出来事を話題にし、一緒に笑い合ったり、時には相談しながら過ごしていく中で、現在支えあえる関係を築いている。	○	常に謙虚な姿勢で、利用者と係わりながら、共に笑い・悲しみ等の気持ちを共有できる関係を築いていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に方にはるかでの生活状況や介護状況を報告連絡している。 また、食事会等、定期的に行いながらご家族と一緒に過ごせる場の提供に配慮を行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族との関係を良好に保てるよう、関係の理解や協力を行っている。食事会等、定期的に行いながらご家族と一緒に過ごせる場の提供に配慮を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	小規模という地域密着サービスを最大限にいかし、馴染みの場所・人・とのつながりが切れてしまわないよう支援していつている。利用前につながりが途切れてしまった友人などとの関係を復活できるよう、援助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	今までの生活スタイルや習慣の違う方が集まり、同じ時間を過ごすことでの楽しみ援助として、レクリエーションや趣味の交流の支援を行っている。	○	利用者が孤立してしまわないよう、職員が声掛けを行ったり、他の利用者とのコミュニケーションを円滑に図れるようパイプ役を担っている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	医療機関での長期治療や長期療養の方についても、その都度はあるかでの受け入れや介護方針等について相談に応じている。又、お見舞い等にもでかけ、状況把握を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中での会話や表情などから本人の意向の把握に努めている、また家族やケアマネ、利用していたサービス事業所からも本人の状況など聴取し、スタッフ間で意見交換を行いながら、その方の望む暮らしの支援を行っている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族・ケアマネージャー等から情報を得、その人の生活環境や生活スタイルの把握に努め、あるかでの生活の参考にしていく。	○	生活歴・本人情報を基に、本人がより良い生活が出来るよう努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	チーム職員にとどまらず、他のチーム職員や看護職員、ケアマネージャー等異職種の方々とも共有し話し合いを行いながら、その方が安心できるよう行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	小規模では担当者が利用者の把握を行う担当制を行っており、定期的な担当者会議を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画書に基づいたサービスを行っているが、本人の急激な体調変化が見られた場合には、適時担当者会議を行い、サービスの見直しを行っていく。	○	今後も適時サービス状況が適切に見直しを行っていく。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各利用者ごとに介護記録を作成している。 職員全員に情報の共有するために職員連絡帳を作成し、共通理解できるようにしている。	○	日々録等の個別記録は書かれているが、より利用者の状況を把握できるように、内容の検討が必要
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	時間・曜日などにとらわれず、急な訪問や宿泊に対応している。又医療機関の受診や、予約。外出など家族が手が届かず、本人が援助が必要なときは実施している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的な地域運営推進会議を行うことで地域資源との協働を行っている。避難訓練の際の消防の協力、学校行事の参加など、支援を協力をして頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問による理美容サービスの利用などを行っている。	○	今後も本人の意向に沿ったサービス内容を考えていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括センターの職員が委員として参加して頂き、情報交換、意見交換をおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	掛かりつけ医との情報の共有を強化し、安心できる医療を受けられるよう支援を行っている。また、家族が立ち会えない場合には、職員引率によりご家族に報告を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科医の定期的な往診と、緊急時の受け入れなどの連携を図っている。往診時または電話による相談にも応じていただける体制が整っている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	小さな体調変化でも施設の看護職員に相談し、日々の健康管理に努めている。訪問看護利用者については、随時情報交換など行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が急病や容態の変化等で医療機関を受診したり、入院することになって、ご家族や医療機関と相談し、以後の対応を協議しながら治療できるよう対応している。	○	退院ごの受け入れに際し、どのような方法であれば在宅での支援が継続できるのか話し合い、その都度ご家族を交えて話し合いを行っていききたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応については、その都度話し合いを持っている。ご家族と一緒に病院を受診し、医師を交えた相談も行っている。その際の報告書などにより、情報の共有を図っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した場合の対応については、その都度話し合いを持っている。ご家族と一緒に病院を受診し、医師を交えた相談も行っている。その際の報告書などにより、情報の共有を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えの際に関しては、そのような事例が解かったとき等、本人・家族等との話し合いを持ち、なるべく納得して頂けるよう努力を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員一人一人がプライバシーを守るという意識を持ち、利用者との関わりの中で辱める行動や言動がないか、常に振り返っている。また、職員同士がお互いに注意し合える関係作りをしながら、利用者が安心できる生活の場を作っているよう取り組みを行っている。言葉づかい改善チームの発足。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	常に利用者の目線に立ち、何を思い・どう感じているかを察していけるように普段から利用者の行動や表情の観察を行っている。、その上で本人が出来ることと、側で一緒に行うことを見極めながら、支援を行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	今まで生きてこられた、生活の中で、年老いたとしても、どのように過ごしていきたいのかを考え、その方の生活スタイルを維持できるように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	施設を利用されているとしても、今まで通っていた馴染みの場所や店を大切に、本人が望む所へ何時でも行けるような支援を行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人の役割や得意分野に合わせて、食事の準備(テーブル拭き・調理・後片付け)等を分担して行っている。	○	今後も、利用者を含めた役割を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者好みの食べ物を持参されることも多いが、はるかでも自宅同様に楽しんで頂けるよう行っている。泊りの時には、お小遣いを持参して頂き、必要時、スーパーに買い物に出かける。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	定期的声掛け・誘導を行い、本人に不快な思いをさせないよう配慮を行っている。また、自分から意思表示出来ない方に関しては、行動パターンや時間・本人のリズムを把握し、排泄支援を行っている。排泄チェック表による把握。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には週2回の入浴をしているが、その他として本人・家族の希望に沿った支援を行っている。(毎日の入浴・AM/PM)等		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ソファやベット等・希望に応じての個室等。安心して休める時間や場所の提供を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の役割支援を確立出来るよう、努力している。 又、楽しみごと等は日常会話の中から広がったこと等をすぐに実現できるよう支援を行っている。(買い物・外出)等		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にお金は所持されていないが、こちらでお預かりさせて頂いている方に関しては金庫で管理し、本人の必要に応じて手渡し・支払いを行っている。あわせて、出納帳への記入も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節に合わせた催し物やおやつ・外出等あらかじめ計画していなくても出掛けられるよう心掛けているが、一人一人の希望というよりは職員の提案により、全員で外出していることが多い。	○	小規模の楽しさの一つでもある「天気が良いから○○へ行こう」といった外出も続けていきたいが、計画し一人一人の希望に応じた外出の機会も増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	「普段行けない場所へ外出できた」ということはあるが、「行ってみたい」という思いの反映や個別対応という所までは至っていない。	○	近隣への外出は、日常的に実行できているが、遠方への外出は計画的に行えるよう考える
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話に関しては、時間帯に差し支えなければ、本人の希望に応じお話しして頂いている、手紙に関しては現在のところ考えるに至っていない。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問頂いた際には、本人とゆっくり過ごせる場所を提供し、いつでも対応できることを心掛けている。友人の会へ参加できるよう送迎を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に係る利用者がある場合には、身体拘束マニュアルに沿った対応を行っている。現在身体拘束は行っている方はいない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中居室や玄関に鍵を掛けることはなく、安全性に配慮しながら自由に行き来できるようにしている。 玄関にセンサーを付けることもしていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士、声を掛け合いながら利用者が何処に居るのか、どのような状況なのかを把握しあい、事故防止に努めている。また、さりげなく近づき把握する事、必要に応じたナースコールを活用していく。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	切れるもの(包丁等)は利用者が直接目に触れないところに収納しており、危険を防いでいる。	○	利用者一人一人のリスクマネージメントを行い、更に安全に過ごせるように努めていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止委員会を組織し、事故防止対策に取り組んでいる。事故防止マニュアル・ヒヤリハット報告の徹底をしている		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急法や心肺蘇生法など赤十字救急隊から指導を頂いている。緊急時の連絡マニュアル・対応マニュアルに沿った対応をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の方々にも呼びかけを行い、避難訓練を実施している。日頃より、近隣住民との関わりは大切にしており、駆けつけ体制を整える等万が一の事態の備えている。	○	地域運営推進会議等での地域との協力体制を得られるように話し合いや災害時の想定訓練を行っていく。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	月に1度の訪問だけではなく、必要に応じた訪問・電話連絡・連絡帳での家族とのつながりを持てるよう行っている。その際にリスクや対応策について相談をさせて頂いている。	○	今後も継続しながら、様々な角度からのリスク管理を行っていききたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化や異変に気づいた際は、速やかに家族への連絡・病院への通院・情報の共有を行っている。また、その日の勤務でなかった職員についても情報が行き渡るよう、ノート等を活用しながら徹底していつている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	用法や用量、服薬の支援には努めているが、薬の目的や副作用の理解については個人差があり、看護師の指示を仰いでいる。また、薬の目的・副作用について、職員全体で理解し、共有していく。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の有無を問わず排便のチェック、水分を勧める、体操や散歩等働きかけている。必要に応じて薬を服用されている方についても、声掛け、見守りを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯ブラシを持参されている方、本人自身で行う方については支援しているが、それ以外の方についてはまだ全員にまで行き届いていない。	○	口腔ケアの必要性を理解し、歯科医師の援助を受けながら取り組みを行う
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事については、調理担当者が考慮しメニューを作成している。水分量についても職員が適時対応していつている。また、体重にも気に掛けながら、今後もその方に合った食事や水分を提供して行いつている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	法人内にて感染予防のマニュアルを作成している。日常時には排泄援助時に手洗い・消毒を徹底しペーパータオルを使用している。	○	基本的なことをしっかりと行い、継続していくことを第一とし、感染が請った場合には感染予防委員会を中心とした対応により、蔓延の防止を図る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器や調理道具には洗った上で再度、食器用洗浄機にて洗浄している。食材は毎日提携している業者によって届けてもらっている。冷蔵庫の残り物や賞味期限切れ等は無いか定期的にチェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関ドアはガラスの面が多い為、丸いシールを貼り利用者がぶつからないように工夫している。また、玄関ポーチには、イスとテーブルのセットを置いてあり、くつろげるスペースがある。コルクボードも設置しており、行事のお知らせや、チラシ、地域のお知らせなどがあり、様々な情報が得られる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を意識した飾りや花等を飾るようにしている。また、不快な生活音を出さないように配慮しながら、トイレや浴室にも居心地よく変化を持たせられるような空間作りに取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	「いつもの場所」といった定位置は定まりつつある、職員の様々な視点で、気の合う方同士の把握(確認)をし、居場所と機会の提供を行っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	普段使っている物をお持ちの方に関しては、本人・ご家族の意向を重視している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	生活臭や空気のだよみ等は定時の換気を行っている。又、温度調整は利用者の身体的負担を考慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの取り付け、引き戸、歩行器、バリアフリー化により、自立移動を配慮し、出来るだけ障害物を置かないようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの案内板等の環境や困ったときに手を差しのべる職員がいることで、混乱や失敗を防げるよう配慮する。 また、失敗したとしても、その事を他者に知られない工夫や配慮を行っている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	プランターに花を植えたり、花壇の作成・庭の野菜等の成育鑑賞及び収穫。皆さんで参加している。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんど掴んでいない ① 利用されるに際して、事前に本人・家族との希望や思いを聴取し、なるべく一人一人の生活リズム合わせられるよう支援をしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない ① 業務としての職員の動きはあるものの、職員が意識をして利用者の隣に座ることをしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ② 利用者一人一人が自由に「思ったときに思った行動」が出来るように配慮している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ① 本人の楽しみや長年行ってきたこと・得意なことを、サービス利用しながら行っていけることで、もう一度活躍の場を持って頂くことが、生き生きした生活ができる支援を行っている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ② 四季折々の季節を感じて頂けるような外出の企画を行っていると共に、普段の生活でもちょっとした買い物を行えるよう配慮している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ① 医療機関との連携や定期受診の情報、看護師への相談等、利用者の体調の状態を把握しながら行っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ② 様々な状況に対し、いち早く気づき対応できているため、利用者は安心して過ごせていると思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2／3くらい ③ 家族の1／3くらい ④ ほとんどできていない ② 送迎の際や泊まりの際、定期訪問等に必ずご家族の思いや不安がないかを聴けるように配慮を行っている。その際に少しでも困ったことがあれば、すぐに訪問させて頂き、最良の改善方法を模索していく。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない ③ 地域交流スペースを開放し、より多く地域の方に利用して頂けるよう配慮している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ② 運営推進会議が家族・利用者との交流会などを開催しながら少しずつではあるが理解者・応援者は増えていると思う。
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない ② 利用者と色々な活動を行いながら、職員自身も楽しんで働いていると思える。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない ① 日々の生活に楽しみや友達が出来たと喜ばれている方と接していると、ある程度満足されているのではないか？と思える。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない ② 利用者の表情や家族の思いを感じながら接していると、現在は概ね満足されているのではないか？と思える。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

開所してまだ1年も経たない施設ではありますが、利用者・ご家族の要望に即対応でき、「皆さんが安心して生活が出来る」施設を目指しています。